

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	早稲田大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ワセダダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ実習04(ビジネス)
	学部・研究科等名	全学部(グローバルエデュケーションセンター)
	担当教職員名・役職	東出浩教教授(商学学術院)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	13
	受入企業等数	25
	受入企業等名	大企業5社、中小企業1社、ベンチャー企業18社、外国企業1社
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,9.その他
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	ベンチャー企業	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ルーティンワークではない「クリエイティビティ」が求められるプロジェクト型の業務に従事することを条件とし、担当社員のサポートを受けながら全業務過程(課題発掘、アイデア出し、チーム内での検討、調査・ヒアリング、ブラッシュアップ、上層部へのプレゼンテーション等)を一社員として取り組む実践的な就業体験を行うことを各企業に求めている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	全学年全学部学生が選択履修可能なグローバルエデュケーションセンター提供科目として設置している。学年・知識の多様な学生に対し、就業先の業界の課題や知識を修得させる事前教育をした上で、10日間以上の就業実習を行い、就業後に振り返りの機会を2回設けている。この他マナー等のセミナーによりスキル面も補強している。知識・スキル・実習を組み合わせることで、理論と実践を統合した体系的なプログラムとなっている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	状況に応じて学生・受入企業と随時連絡を取り合っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業先の業界に関する知識・課題を学ぶ講義形式の授業とグループで業界の課題や働き方を議論しプレゼンテーションする授業(全3回)を行う。このことに加え、ビジネス上の一般常識を学ぶための、マナーセミナー、リスクマネジメントセミナーを実施し、知識面・スキル面での事前準備をしている。また、各学生に計画書を作成させ、獲得目標や具体的な行動計画を設定することで目標・目的の明確化を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業体験を言語化して共有することを目的に、全員がプレゼンテーションを行う報告会を実施している。また、ビジネスコース以外の3コース(行政、国際関係、マスメディア)と合同で行うフォローアップセミナーを実施し、多様な業界での就業体験を共有することで、職業観の醸成を促している。この2つの授業を通じて、今後のキャリアプランや学修プランを考えさせる機会としている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生個々人の状況に合わせて、受入企業と連絡を取り合い、就業状況を把握している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	計画書・報告書・受入企業からの評価表

要素④	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	計画書において「獲得目標・行動計画・行動ポリシー」を明確化させ、就業実習後に提出する報告書において、「獲得目標に対する成果、今後の課題、自己評価」を記入し振り返ることにより、自らキャリアプランや学修プランを考えて行けるようにしている。また、受入企業からの評価表に基づき、学生の自己理解を促すようアドバイスをしている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 実施期間10日間以上
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	各受入企業において連続した10日間以上のインターンシップを行っている。
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ルーティンワークではない「クリエイティビティ」が求められるプロジェクト型の業務に従事することを条件として受入依頼し、受入企業から提出された受入概要に基づき実習計画を策定している。具体的な就業内容は、学生と受入企業が事前面接等によりすり合わせをして決定しており、就業実習がより効果的なものとなっている。受入企業から提出された評価表は学生の成績評価に反映され大学と企業が協働して学生の育成にあたっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.waseda.jp/inst/career/internship/win/
問い合わせ先	大学等名	早稲田大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	03-5286-3936
	メールアドレス	intern@list.waseda.jp